

評価委員会総合評価

研究課題名：N 南海トラフ沿いのプレート間固着状態監視と津波地震の発生状況即時把握に関する研究

評価委員

委員長：小泉尚嗣

委員：岩崎俊樹、関口渉次、馬場俊孝、保坂直紀、渡辺秀文

評価年月日：令和2年8月3日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、南海トラフ沿いのプレート境界における固着状態を検出する手法高度化や、その物理的背景に関する説明能力向上、さらに、津波地震を含む多様な地震の規模・震源域を迅速に把握するための手法の開発など多岐にわたる総合的研究である。

南海トラフ地震に関する研究では、種々の方法で、プレート間スロースリップの検知・把握手法の開発を行ったことは評価出来る。津波地震即時把握に関する研究についても、複数帯域振幅分布に基づく破壊時間の推定によりスロー型津波地震の規模推定が可能になったのは、大きな成果である。また、成果の一部は気象庁の業務にも取り入れられ、あるいは検討されており、社会への成果の還元という観点からも高く評価できる。

なお、今後に向けて、以下の指摘事項を踏まえて、取り組んで欲しい。

- ・南海トラフ地震臨時情報の定められた制約により、最短2時間以内に南海トラフで発生した地震像を的確にとらえなくてはならないが、この制約の中でできる事、できない事を整理する必要がある。
- ・沖合観測データを活用した津波予測の一層の精度向上、津波浸水のリアルタイム予測への貢献に期待する。
- ・海底地すべりによる津波の推定に対しても、具体的な観測・解析手法の開発に挑戦してほしい。
- ・多項目にわたる研究となったが、人的資金的資源を考慮し、場合によっては的を絞った研究に転換することも検討してよい。
- ・スロースリップ地震への理解が深まり、業務への実装も行われているが、こうして得られた知の社会との共有について自ら努力してほしい。